

情報リテラシーI 演習 1

1. 次の文を、タイプしなさい。(1,225 文字・20 分) ファイル名 IIA 日付-学籍番号-課題 1.docx

就職活動が本格化した、早くも疲弊する学生が増えてきた。

インターンシップの増加や就活時期の二極化で就活期間が長期化。

これが学生を追い詰める原因の一つになっている。

5月に入ってリクルートスーツに身を包む大学生を多く見かけるようになった。いよいよ就職活動が本格化してきた。

そんな中、「就活で挫折を感じています。今後もうまくいくのかどうか、不安でしかたがない」(学習院大生)。「希望の企業の最終面接で落ちてしまった。そのショックで就活が手につきません」(中央大生)など、早くも「就活疲れ」を起こしている学生が目立っている。

今シーズンの就活は2015年3月に解禁。8月の選考開始時期へ向けて、今はまだ序盤戦であるはずなのにもかかわらずだ。

彼ら、彼女らが既に1年近くも就活を続けていることが大きな原因だ。今シーズンの就活が事実上始まったのは、2014年夏のインターンシップである。

今シーズンはインターンシップといっても、昨シーズンまでのような単なる就業体験ではない。優秀な学生をできるだけ早く確保したい企業側が、事実上の選考の場として位置づけていたケースが多い。選考会さながらの緊張感に包まれていたという。

さらに、インターンシップは学生の冬休みに当たる2015年1~2月にも、第2の山場を迎えた。その後、3月の就活解禁を経て、5月の現在へと至っている。

今後の就活スケジュールを見通すと、まだまだ長期化する見込みだ。経団連の「採用選考に関する指針」で、選考開始時期が4カ月後ろ倒しされた影響が大きい。昨シーズンまでは4年生の4月だったが、今シーズンから8月になった。だが、大半の企業がこの指針を守らず、5~7月にかけて、選考を始める企業が目立っている。

一方で、経団連の指針通りに8月から選考を始める企業も存在する。

「8月から選考する」(三菱商事)、「指針に従う」(野村証券)、「指針は守る」(三菱東京UFJ銀行)など、いずれも学生からの人気が高い企業である。学生が既に別の企業から事実上の内定を得ていたとしても、結局は自分たちを選ぶはず、という自信がある。

昨夏と年初のインターンシップに続き、実際の選考時期が5~7月と8月の二極に分かれることによって、2014年8月から2015年8月まで、13カ月の間、断続的に就活が続くことになる。昨シーズンの就活期間は5カ月(2013年12月~2014年4月)だった。実に、2.6倍の長さという異常事態だ。

特に、「理系なので夏ごろが卒論や修論のテーマを決めて、書き始める時期。就活との兼ね合いが難しい」(中央大生)と危惧する声もある。

そもそも、経団連は「学生が学業に専念できる時間を確保する」ために就活の時期を後ろ倒しにした。それにもかかわらず、むしろ就活は長期化して、学生が学業に専念できる時間が大幅に減っている。

企業の採用意欲が強いことは、本来喜ぶべきではあるが、今シーズンのような混乱が続けば、企業と学生の双方が疲弊するだけだ。来年へ向けて、解決すべき課題は山積している。

2. ビジネス文書を作成しなさい。ただし、A4 サイズ 30 文字 30 行で設定すること。(10 分)

ファイル名 IIA 日付・学籍番号・課題 2.docx

日付 平成 27 年 7 月 1 日

宛先 豊後スーパー株式会社 営業課 佐伯 弥生

送主 株式会社豊後大野食品 販売部 清川 雫

タイトル 意見交換会のご案内

本文

このたび弊社では、下記の要領にて、意見交換会を開催させていただくこととなりました。

つきましては、ご多用中まことに恐縮ではございますが、ご来場いただきたくお願い申し上げます。当日は、皆様方との親睦会等も予定しております。

何卒、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

日時 8 月 3 日 (月) 14 時より

場所 佐賀関観光ホテル 2 階「葵の間」